



関係人口とは



地域の活性化のために

つなげてひろげる 関係人口

川根本町は、人口減少や高齢化によって地域の担い手不足が問題視されています。本号では、そんな担い手不足の解消が期待される「関係人口」を生み出し、地域の活性化のために奮闘している人たちの取り組みを紹介します。



関係人口ってなに？

関係人口とは、観光で町を訪れた「交流人口」でもなく、町に定住した「定住人口」でもない、地域とさまざまな関わり方を継続している人たちのことを指します。(上図参照)。具体的には、町外に居住地があるのに、川根本町が好きで頻りに訪れる人や町内にルーツがある人、過去に仕事で住んでいた人など、強い思い入れがあり、さらに地域の活性化に参加する意欲を持っている人たちのことをいいます。

関係人口は、地域活性化の担い手になることにとどまらず、地域に新しいアイデアや価値を生み出し、住民にとって刺激になりうる人材として期待されています。

関係人口になるきっかけ・土壌作りが鍵

関係人口を地域に受け入れることとは、「町が目的としている」「移住・定住者を増やすこと」につながります。そのためには、地域と深く関わりたい人を積極的に受け入れ

地域活性化のヒントは 町外の人の感性や柔軟な発想

川根本町の人口は、令和4年3月時点で約6,200人で、今後も減少を続け、それに伴い地域のにぎわいも徐々に失われていくことが予想されています。その中でも地域の活性化を図り、魅力ある地域づくりを進め、移住・定住を促していくことが重要です。

川根本町には「地域ににぎわいを生み出したい」「町の魅力をもっと知ってほしい」という思いを抱く住民がたくさんいます。今年度、そんな人々と大学生や若い移住者が協力して、「関係人口」を増やすために、さまざまな活動が町内各地で行われました。

地域には、既に住民同士の固いつながりができ上がっていて、移住者や若者を新しく受け入れることに抵抗がある人もいます。しかし、地域の活性化の一環として、新しい感性や柔軟な発想を取り入れることは不可欠です。

本号で紹介する事例が、皆さんの住む地域の今後の活動のヒントにつながるかもしれません。

ていくための体制づくりが必要になります。

実は、既に町内ではさまざまな方法で関係人口の受け入れが進んでいます。一般社団法人エコティかわね(以下「エコティかわね」)のような民間団体が、観光事業を通して、町を何度も訪れる人たちと交流を重ね、町内の「居場所」づくりに一役を買ったり、また、今年度は関係人口拡大を目的に県内大学と地域、事業所、町が協働した活動が行われたりしています。

今年度の取り組み

「川根本町にはまだまだたくさん魅力がある。地域の皆さんが当たり前前に感じていることが魅力になる」。今回の取材で話してくれた皆さんの言葉です。次頁からそんな皆さんの活動を紹介します。大学生と地域住民の協働事業や地域づくり活動、エコティかわねと長島ダムの観光事業など、他の地域でも「地域活性化」の参考になりうる活動を、一部ではありますがご覧ください。